



平成 27 年 4 月 30 日

各 位

会 社 名 株式会社アゴーラ・ホスピタリティー・グループ  
 代表者名 代表取締役社長 ホーン・チョン・タ  
 (コード：9704 東証第1部)  
 問合せ先 取締役CFO 佐藤 暢樹  
 (TEL. 03-3436-1860)

平成 26 年 12 月期通期業績予想値と実績値との差異並びに  
 営業外収益および特別損失の計上に関するお知らせ

平成 26 年 9 月 22 日に開示いたしました平成 26 年 12 月期通期（平成 26 年 1 月 1 日～平成 26 年 12 月 31 日）の連結業績予想値と本日開示の平成 26 年 12 月期通期実績値に差異が生じたのでお知らせいたします。

また、平成 26 年 12 月期（平成 26 年 1 月 1 日～平成 26 年 12 月 31 日）において、営業外収益および特別損失を計上することといたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成 26 年 12 月期通期連結業績予想値と実績値との差異  
 (平成 26 年 1 月 1 日～平成 26 年 12 月 31 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	7,300	60	150	20	0円07銭
今回修正 (B)	7,503	126	257	46	0円17銭
増減額 (B-A)	203	66	107	26	
増減率 (%)	2.8	111.1	72.0	130.6	
(ご参考) 前期実績 (平成 25 年 12 月期)	7,064	△85	△212	△315	△1円15銭

(参考) 平成 26 年 12 月期通期個別業績予想値と実績値との差異  
 (平成 26 年 1 月 1 日～平成 26 年 12 月 31 日)

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	135	5	4	0円01銭
今回修正 (B)	188	195	122	0円45銭
増減額 (B-A)	53	190	118	
増減率 (%)	39.6	—	—	
(ご参考) 前期実績 (平成 25 年 12 月期)	175	△263	△330	△1円20銭

## 2. 差異の理由

連結業績につきましては、好調なインバウンド需要を追い風に、ホテル事業の売上拡大も寄与し、売上高では、予想値を上回る 7,503 百万円となりました。

営業利益では、費用面において、ホテル事業における外注人件費の見直し等、固定費の圧縮を押し進めた結果、予想値を上回る 126 百万円となりました。

また、営業外収益として、豪州で分譲住宅を販売する持分法適用関連会社の投資利益を計上したこと等により、経常利益は 257 百万円、当期純利益は 46 百万円と、それぞれ予想値を上回ることとなりました。

個別業績につきましては、証券投資事業部門における円安の影響による為替差益の発生等により売上高では、予想値を上回る 188 百万円となりました。

また、当社保有の外貨建資産を同日の為替相場で評価したことによる為替差益の発生等により経常利益は 195 百万円、当期純利益は 122 百万円と、それぞれ予想値を上回ることとなりました。

## 3. 営業外収益の計上

### (1) 為替差益の増加

平成 26 年 12 月期第 3 四半期連結累計期間において円安の影響等により 31 百万円の為替差益を計上しておりましたが、その後の為替相場の変動等により、為替差益は 79 百万円に増加いたしました。

これは、平成 26 年 12 月期期末（平成 26 年 12 月末日）時点において、当社保有の外貨建資産を同日の為替相場で評価したことによる為替差益によるものであります。

### (2) 持分法による投資利益の減少

平成 26 年 12 月期第 3 四半期連結累計期間において、豪州の当社持分法適用関連会社における開発前用地の売却等を要因とする投資利益 262 百万円を計上しておりましたが、その後、同社における損失計上により、持分法による投資利益は 183 百万円に減少いたしました。

## 4. 特別損失の計上

今般の、社内調査委員会による調査および調査結果を踏まえた決算修正作業により、今後発生が見込まれる費用に備えるため、過年度調査等諸費用引当金繰入額として 60 百万円を計上いたしました。

以 上